

総会資料

平成 20 年度事業計画 報告

1:20年度「ふれあいの森」における活動計画 報告

(1)「ふれあいの森」位置・面積

位 置	面 積
大山 国有林 606 林班 ろ に 小班	15Ha
丸山上 民地（小西顧問 所有） 第 1 農場	幼木農場
丸山下 民地（小西顧問 所有） 第 2 農場	ブナの子農場

(2) 活動計画 苗床の作業・委託分を検討して軽減を図る

活動の内容	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2 月	合計 回
幼木の管理 (民地)		1	2	1	2	1	1	1	2			
苗床の管理 (民地)	2	2	2			2	2					
植樹 体験林業				→					4			
植樹地の管理				1	3	1	8					
研修会・他		1	1					1	1			
ブナの学習会	2	2	2	2	2		2	2	2		3	
調査		1							1			
オオヤマザク ラの増殖	1	6	1	3	1		1		8			

- * 民地での苗床の管理は計画以上の作業を必要とする
- * 農場の活動日を 毎月第 2,4 土曜日 9 時～午前中・定例化
 現実ではそれだけでは管理できないので、定例の作業日以外も自由参加とし行っています。
 様子の分かる者が必ず出かけるようにしますので事務局まで連絡を。
- * 農作業日誌に記入も続ける。・・・気ままに成った
- * その他の活動は 事務局から連絡するし、問い合わせもしてもらう。

2: 幼木の管理・苗床の管理

- 草とモグラの悩みの解決策を
 モグラに対しては周囲に土中ヘンスを設け、地上部はウサギネットを実施した
 順調だったが途中より数匹が入り込み、今も一部混乱している。
- 草取りによる会員への負担を軽減するのに、丸山地区の農家の人へ委託した。
 これは会の活力を導いた。
- 第一農場でコウモリ蛾対策 11 本の被害・・・パトロールと駆除 11 本
- 第 2 農場も 1 をおこない、剪定をし 1 本立ち、遮光対策を行った。
- 全水道から草刈り 46 人の参加
 蜂対策を完全に安全対策を実施した・・・資料作成と勉強会
 ネット、吸引器 蜂とラップ作成取り付け

3: 体験林業・ブナ

今年から林野庁の方針が変わり、予定地が「大山ふれあいの森」と指定されることになり、
 4 月に一般公募・6 月に審査決定した。調印式は体験林業の 11 月 9 日に現地で行った

来年も 10 月か 11 月に計画することになる。

4：オオヤマザクラの増殖

ブナの活動が最優先ですが、それを継続して楽しく出来る副の作業です。身近に楽しくやれる仕事に育てたいものです。

- 育成と大山国立公園内のオオヤマザクラのマップ作りに取り組んだ。
山歩きのメンバーを投入したいと思ったが・・・やはり同じメンバーでの活動
わずか 10 日ほどの間に関金～鏡ヶ成～三の沢・榎水高原・大山寺・香取・大山道路・
丸山の周辺を調査した。役ページにしてまとめた。
- オオヤマザクラの桜並木作りに協力（丸山地区）
3 月に事前に見本を植え、11 月には宝くじ事業団から寄贈を受けた 250 本をブナの
会の仲間が中心で、大事業を支援した。
9 月から 270 本の支柱 支柱立て 土の準備作業 支柱配布と紐準備等

5:研修会の充実

- 作業後の学習会は、今までどおり実施した
 - 森林管理署主催自然観察会(秋)・山陰ネットワーク等に積極的に参加した・秋の県行事に参画した。
 - ブナの講演会・・・未実施
 - 大山ブナの写真展と私とブナを語る・・・未実施
 - 観察会と懇親会・・・・・・期日・人数
 - 県の植樹祭(春)・・・未参加・ 森林作業者研修会(夏)・・・・未実施のため不参加

6:会員の拡大・・・目標 35 人増・・・理解を深めたが、増員には・・・成らなかった

- 会のチラシを作成し拡大を計る・・・・チラシ作成・1,000 部
- 会の活動報告・・・新聞・テレビで報道・ホームページ立上げ
- 会の写真による活動を展示・・・・随時・伯耆町ガーデンプレイスで 1 回のみ

7:事務局の充実と役割分担の推進・・・進展せず

8:その他

会の活性化のためにいろいろな企画をしていく。 但し、これだけのためにはやらない。

- * 山菜(含む・秋のキノコ)採りと食べ方
- * マシジミの繁殖の追跡・・・・追跡 全滅
- * 茸の栽培をしてお土産を・野菜物・・・・まずまずの作柄
- * 他エコ体験・ネイチャー教室に協力・リーダーの養成・・・・いまいちか
その他.....
- * 6 月 7 日・・・・丸山地蔵滝が平成の名水 100 選に
- * 11 月 23 日・・・・丸山地区オオヤマザクラの名所づくりに協賛

**小西顧問が全国植樹祭で緑化功労賞を授賞
全水道中四国の研修会(講師及び案内 4 人)**